実践団体情報

記入日	西暦 2022 年 1 月 17 日（2021 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	千葉県立銚子高等学校
代表者名	菅谷　健一
プラン全体のタイトル	県銚ぼうさい探究！
電話番号	０４７９－２２－６９０６
メールアドレス	t.ymzk61@chiba-c.ed.jp
実践団体の説明	千葉県北東部の全日制普通科高等学校。 １学年の学校設定教科「防災の学び」、２学年の「総合的な探究の時間」を活用し、防災をはじめとする探究型学習に取り組んでいる。 東日本大震災では、学校所在地の銚子市をはじめ、生徒の居住地も津波や液状化の被害を受けた。その後も、日本各地において、地震をはじめとする災害が発生し、防災教育の充実が重要であるとの認識から、学校設定教科「防災の学び」がスタートした。 以来、年々実践内容を発展させながら、生徒が主体的に取り組める防災教育の充実を目指してきた。探究型学習を中心とし、地元の大学やジオパーク推進室、銚子市役所との連携を密にし、本校生徒の防災に関する学びを深めることや、その内容を、小中学生や住民の方々へ発信することにより、地域貢献も大切にしている。 これまでの、地域に根ざした防災教育や探究活動の実践が評価され、２０２０年度、学校安全表彰文部科学大臣表彰をいただいた。
所属メンバー	（代表）　校長：菅谷　健一 （副代表）教頭：林　潤 （担当）　教諭：山﨑　猛浩
活動地域	千葉県銚子市

活動開始時期・結成時期	２０１４年
過去の活動履歴・受賞歴	２０２０年度　学校安全表彰　文部科学大臣表彰
プラン全体の概要	本団体は、千葉県北東部の全日制普通科高等学校である。銚子市は少子化と高齢化が進んでおり、災害発生時に自助・共助の観点から高校生が果たせる役割は大きい。また、日本各地で毎年のように災害が発生しており、卒業後の将来、災害に直面したり、復旧・復興を支援したりする可能性がある。そのため、防災教育の充実を図り、事前の防災対策や復興等について考え、理解を深めておくことが重要である。また、地域によって自然災害の種類や被害規模の可能性に差があり、時代とともに社会も変化していくことから、防災について、絶えず学び続ける姿勢を身に付けることが課題である。 　学校所在地である千葉県銚子市は、３方を海と利根川に囲まれており、長い歴史の中で、幾度も津波をはじめとする水害を受け、また、戦災として空襲を受けている。その度に復興があり、街の様子も変化してきた。その変化の中で、防災対策の工夫が盛り込まれ、災害のリスクと共存し、恵まれた環境資源（水産業など）を生かして営みを続けてきた先人たちの知恵に触れることができる。 　また、千葉科学大学や銚子ジオパーク推進協議会、銚子市役所危機管理室との連携により、地元の教育資源を活用しながら、防災について学びを深めていくことが可能である。 　本校生徒が、これまでの災害や復興の歴史について学び、未来探究型学習に取り組むことで、地域社会へ貢献できる人材の育成を目的としている。

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
４月	・年間計画の調整 各実践への時間割当	・講義の準備 （メディア・心理学・歴史） ・積層図作製準備	・生徒へ年間計画の説明 ・講義（メディア） ・講義（心理学）
５月	・ジオツアー日程調整 （市ジオパーク推進室）	・積層図作製準備	・講義（歴史） ・積層図作製
６月		・探究型学習Ⅰ（個人）準備	・積層図作製
７月	・防災訓練調整 （校内総務部）	・探究型学習Ⅱ（班）準備	・積層図から学級ごとに検討
８月	・ジオツアー打合せ		・課題探究型学習Ⅰ（個人）
９月	・ジオツアー保険契約	・ジオツアー班・コース決め	・課題探究型学習Ⅱ（班）
10 月		・ジオツアーしおり作成	・課題探究型学習Ⅱ（班） ・ジオツアー
11 月	・県銚アカデミア 講師依頼	・県銚アカデミア要項作成	・課題探究型学習Ⅱ（班） ・津波想定防災訓練
12 月	・講演会講師依頼 （千葉科学大学）	・県銚アカデミア準備 （役割分担・進行原稿等）	・課題探究型学習Ⅱ（班）
１月		・避難所運営ゲーム準備 ・講演会準備	・県銚アカデミア ・避難所運営ゲーム
２月			・講演会（復興の成果と課題）
３月			・まとめ

プラン全体の反省点・課題・感想	ジオツアー等で実際に見たり、感じたりと体験的に学ぶ中で、防災につながる発見に喜びを感じていた。 コロナ禍において、学びの充実度を向上させるためにオンライン等の手法を一層活用していくことが必要だと感じ

	た。
今後の活動予定	小中学生や地域住民へのプレゼンテーション、避難場所設置体験などを、オンライン等を活用して実施し、本校生徒の学びの充実及び発信力の向上を図っていく。

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2022 年 1 月 17 日（2021 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	千葉県立銚子高等学校
実践番号	１
タイトル	メディア、心理学、歴史との関係から考える防災
実践担当者のお名前	山﨑　猛浩

実践にかかった金額	ほぼ０円
実践の準備にかかった時間	数週間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 4 月～西暦 2021 年 5 月
実践の所要時間	１時間×３日＝３時間
実践の運営側で動いた人の人数	９人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約１４０人
実践を行った都道府県と市区町村	千葉県　　銚子市
実践を行った具体的な場所	千葉県立銚子高等学校体育館
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	パソコン（パワーポイント）・スクリーン・プロジェクター

達成目標	講義①防災×メディア 　災害時におけるメディアとの向き合い方として、SNS で拡散するデマやフェイクニュースの特徴を学び、デマ情報に惑わされないために、受け手の判断能力が重要であることを理解する。 講義②防災×心理学（正常性バイアス） 　非常時における人間の行動傾向として、ショック状態に陥り、呆然として何もできない状態になってしまう人がとても多いということを理解する。正常性バイアス（何らかの異常事態が起きても、正常の範囲内であると思い込もうとするはたらき。）のように、避難を阻害する心理的作用があるため、安全確保を最優先に考え行動する必要があることを学ぶ。

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">講義③防災×歴史（災害石碑）
　過去の災害の記録が石碑として数多く残されている。しかし、数ある災害石碑の記録が活かされていないことも多い。このように、郷土に伝わる災害の記録は減災の足がかりとなることを認識する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どの力を身につけようとしましたか？</td><td>知識・技能</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>思考力・判断力・表現力</td><td>かなり</td></tr>
<tr><td>学びに向かう力・人間性</td><td>かなり</td></tr>
<tr><td>実践内容・方法</td><td colspan="2">体育館に生徒を集め、パワーポイントを使用して講義を行う。
講義①防災×メディア
１．伝言ゲームを行う。
内容が正確に伝わるとは限らないことを理解する。
２．熊本地震や大阪北部地震の時にネットで流れていたデマの例を紹介する。
３．SNS のデマ情報をマスコミが伝えてしまった例を紹介する。
情報発信が容易な時代であり、正確な情報かどうか、受け手の判断能力が重要であることを伝える。
４．SNS で拡散するデマやフェイクニュースの特徴について整理する。
①創作系　全くの作り話
②誤解・勘違い系
デマの特徴
・情報が極度に不足した状態で表れやすい
・被害や緊急対応を指示する内容が多い
・伝播速度が速い
５．情報発信時の注意点について、例を基に考える。
（例）失言による銀行の取り付け騒ぎなど

講義②防災×心理学（正常性バイアス）
１．非常時における人間の３つの行動傾向について
・落ち着いて行動できる人＝１０～１５％程度
・我を失って泣き叫んだり、ショック状態に陥り呆然として何</td></tr>
</table>

	もできない状態になってしまったりする人が圧倒的に多い。 ２．韓国地下鉄放火事件（２００３年）の例について ・車両内に煙が立ち込めているにもかかわらず、そのまま座ってじっとしていて、避難しようとしない人が多い。 ３．正常性バイアスについての説明 ・心を平静に保つ働きだが、災害時には、危険の過小評価や避難の遅れに繋がりかねない。 ４．西日本豪雨（２０１８年）の例について ・避難のきっかけで最も多かったのは、周辺環境の悪化。 →周辺環境が悪化してからでは、安全が確保できない。 講義③防災×歴史（災害石碑） １．災害石碑とは ２．西日本豪雨の例 ・地域住民の中には、川の氾濫が想定外といった意見があったが、実際は過去の水害の記録が災害石碑として残っていた。 ３．千葉県に多数ある関東大震災の災害石碑の存在について紹介 ４．銚子にある災害石碑について紹介 ・美加保丸の遭難碑 ・千人塚 ５．東日本大震災の石碑について ・女川いのちの石碑プロジェクトについて ６．まとめ ・昔の記録が多くあるはずなのに活かされていない ・読み解くことで被害を抑えられる ・郷土に伝わる災害の記録は減災の足掛かりとなる
得られた成果	講義①防災×メディア 情報発信が容易な時代であり、正確な情報かどうか、受け手の判断能力が重要であることを理解した。SNS で拡散するデマやフェイクニュースの特徴について整理し、情報が極度に不足した状態で表れやすいことや被害や緊急対応を指示する内容が多いことを学び、災害時を含め、情報の正確性を正しく判断するようにするとともに、自身の情

	報発信時にも注意していく必要があるとの意見が多かった。 講義②防災×心理学（正常性バイアス） 　正常性バイアスという心理的作用を学び、非常時に速やかに危険回避の行動をとることの難しさを認識することができた。安全なときに率先して避難するなど、災害のリスクが生じている情報をいち早くキャッチし、行動することが大切であると認識することができた。 講義③防災×歴史（災害石碑） 　災害石碑などの昔の記録が多くあるはずなのに活かされていない現状があることを認識し、過去の記録を読み解くことで被害を抑えられることや、減災の足掛かりとなることを学んだ。また、いのちの石碑プロジェクトのように、今後、発生する災害についても、長い年月経過しても記録として残るような活動をしていく必要があると感じた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	今年度の「防災の学び」のスタートとして、講義を行った。具体的な内容を学び、知識や考えることを身に付けることが大切であるが、これから防災について探究型学習に取り組むにあたり、真剣に防災について考えていく姿勢やモチベーションを高めることも意識して実践した。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	

記入日	西暦 2022 年 1 月 17 日（2021 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	千葉県立銚子高等学校
実践番号	２
タイトル	積層図から考えよう！～地形の特徴と災害時のリスクについて～
実践担当者のお名前	山﨑　猛浩

実践にかかった金額	10 万円未満
実践の準備にかかった時間	数週間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年５月～西暦 2021 年７月
実践の所要時間	１時間×６日＝６時間
実践の運営側で動いた人の人数	９人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約１４０人
実践を行った都道府県と市区町村	千葉県　　銚子市
実践を行った具体的な場所	千葉県立銚子高等学校　教室
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	スチレンボード・発泡スチロールカッター・のり・カッターマット・等高線入り地図・厚紙・蛍光ペン・はさみ・定規

達成目標	土地の標高や地形の特徴を知る。作製した積層図を基に，震災時の被害の状況や、震災後の復興状況、ハザードマップとの整合性について学ぶ。避難所の位置や避難経路について確認する。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法	積層図作製 １．等高線入り地図をコピーする。（重ねるスチレンボードの枚数分） ２．地図ごとに、カットする等高線をマーカーでなぞる。 ３．地図をカットし、厚紙を同じ形にカットする。 ４．厚紙をガイドとして、スチレンボードを発泡スチロールカッターでカットする。 ５．カットしたスチレンボードに地図を貼り合わせ、標高順に全て貼り重ねる。 学習 １．東日本大震災時の被災状況。津波による浸水区域の確認。 ２．ハザードマップとの整合性を確認。 ３．銚子市の災害における危険個所の検討。 ４．津波想定の防災訓練について、学校の位置する標高と津波のリスクから判断する避難計画についての検討。

・銚子

・大船渡

・陸前高田

・釜石

得られた成果	積層図にすることにより、地形を立体的に再現することができた。再現した地形とハザードマップを比較検討し、地域の災害に対するリスクや避難計画について深く考えることができた。１０月にジオツアーを実施するうえでも、事前学習として銚子の地形を把握する良い機会であった。 また、東北３地域の被災当時の状況と現在の復興状況について調べ、復興を視野に入れた防災について探究型学習を実施する前の意識付けとして有効であった。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	地域や地形によって、等高線をマーカーで追うことの難易度に大きな差があった。教職員で連携し、各クラスの進度を揃えられるように配慮する必要がある。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	地域の小中学生、地域住民
伝えたい内容	銚子の地形とハザードマップの関係を示し、有事の際に避難行動を考える際の知識として役立ててもらいたい。

記入日	西暦 2022 年 1 月 17 日（2021 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	千葉県立銚子高等学校
実践番号	３
タイトル	課題探究型学習～未来に向けて自分たちにできること～
実践担当者のお名前	山﨑　猛浩

実践にかかった金額	10 万円未満
実践の準備にかかった時間	数週間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年７月～西暦 2021 年１２月
実践の所要時間	２時間×１０日＝２０時間
実践の運営側で動いた人の人数	１０人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約１４０人
実践を行った都道府県と市区町村	千葉県　　銚子市
実践を行った具体的な場所	千葉県立銚子高等学校　教室・図書室・PC 室
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	レポートパッド・図書・パソコン・コピー用紙・模造紙・カラーペン

達成目標	グループごとにテーマを設定し、様々な災害に対する事前の防災対策や減災への取り組みを考える。成果を共有し、他者の視点や考え方に触れ、広く防災についての知識や考えを理解し、行動の在り方を検討する。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	１．ガイダンス（学習の進め方とスケジュール） ２．調べ学習等 　グループごとにテーマを設定し、図書室やＰＣ室で資料を集め、考えや意見をまとめていく。 ３．まとめ 　各グループ模造紙にまとめ、クラス内発表の準備をする。 ４．クラス内発表 　各グループの発表から、成果や考えを共有し、意見交換によって学びの深化を図る。 　クラス代表班を選出し、１，２学年合同の課題探究型学習の成果発表会発表班とする。
得られた成果	ジオツアーとの関連も含め、様々な視点から、復興、防災、減災を考えることができた。年度のスタートから、防災意識の向上につながるようなアプローチ（教員からの情報提供や問題提起等）をかけてきたことで、とても前向きに取り組む姿が見られた。SDGｓを含め、災害後も持続可能な社会となるような、自分たちの取り組みや行動について意識することができた。

どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	図書室に配置する図書について、事前に精選する必要がある。生徒の理解度に合わせて、活用しやすい資料を用意しておくことが、限られた時間の中で、学習を円滑に進めることにつながる。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	

記入日	西暦 2022 年 1 月 17 日（2021 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	千葉県立銚子高等学校
実践番号	４
タイトル	ジオツアー～実際に見て考える体験的な学びを通して～
実践担当者のお名前	山﨑　猛浩

実践にかかった金額	1 万円未満
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 10 月 18 日
実践の所要時間	6 時間×１日＝6 時間
実践の運営側で動いた人の人数	１０人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約１４０人
実践を行った都道府県と市区町村	千葉県　　銚子市
実践を行った具体的な場所	千葉県銚子市 ジオパーク各地点
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	銚子ジオパーク推進協議会 ジオパークガイドの方々

達成目標	銚子の立地がどのように未来につながるか考える。（防災や復興、まちづくりなど）。観光資源や文化財から学ぶ。フィールドワークを行うことで、課題探究のテーマの視野を広げる。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	・クラスごとにコースに分かれて、フィールドワークを行う。 ・午前中にフィールドワーク。午後に振り返りのレポート作成。 １組〈屏風ヶ浦・名洗コース〉 　銚子の大部分を占める台地は隆起によって形成され、そこには侵食により様々な地形が作られている。そんな台地の端、海によって侵食されできた屏風ケ浦の崖や縄文海進以降にできた低地をめぐり、土地形成のプロセスと災害のリスクを考える。 ポイント　粟島台遺跡　名洗町　銚子マリーナ海水浴場付近 　　屏風ケ浦周辺 ２組〈外川コース〉 　１７世紀中ごろ、紀州の崎山次郎右衛門が作り上げた外川。巧みに地形を利用して作り上げた人工的漁業集落のまちづくりのコンセプトと外川を襲った自然災害・そこにおける防災機能の可能性について考える。 ポイント　外川の街並み　高神小学校付近 　　外川漁港　大杉神社

	３組〈犬吠・君ヶ浜コース〉 　初日の出や灯台で有名な犬吠埼周辺には、銚子を襲った超巨大津波の痕跡があります。犬吠埼-君ケ浜-小畑池をめぐりながら、津波の侵入した経路とその地形の形成を考える。 ポイント　犬吠埼灯台　君ケ浜　君ケ浜しおさい公園 銚子ジオパークの森（国有林）　小畑池　石尊神社 ４組〈街中コース〉 　江戸時代、利根川の水運で大発展を遂げた銚子。そんな銚子発展の痕跡をたどりながら、平野の形成、都市部を流れる小河川（滑川）の災害リスクを考える。 ポイント　河岸公園　浜口吉兵衛銅像　飯沼観音 旧公正市民館　復興記念碑　浜口梧陵紀徳碑
得られた成果	生徒から以下のような感想が得られた。 ・これまでの災害や戦災を乗り越えて、今の銚子があるということを認識する良い機会になった。 ・復興に向けての都市計画から、火災の延焼を防ぐなどの機能を考慮して、道幅の大きい道路ができるなど、将来の災害の被害を抑えられるような工夫を考えていることが重要だと感じた。 ・公園が多く設置されており、空気の浄化と人々の健康、また、災害

	発生時の一時避難場所の確保に繋げるといった考えが昔からあり、ＳＤＧｓに関連した取組が、過去からすでにあったのだと気付いた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	積層図での学習との関連や、学校の津波想定の避難計画を検討することに、ジオツアーでの学びを活用するなど、他の実践との関連付けを大切にしたことで、学習の相乗効果を高めることができた。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	銚子ジオパーク推進協議会
関係者の説明	ジオパークは地質遺産を含む自然の保護に加え、それらを教育やツーリズムに積極的に活用し、地域の持続的な活性化を目的としている
関係者の連絡先	0479-21-6667

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	近隣の高等学校等
伝えたい内容	実際にフィールドワークを行いながら体験的に学ぶことは、とても有意義であり、学校内での授業とはまた違った生徒の様子を見ることができた。

記入日	西暦 2022 年 1 月 17 日（2021 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	千葉県立銚子高等学校
実践番号	５
タイトル	特別講演会「様々なものを運ぶ海の流れ」
実践担当者のお名前	林　潤

実践にかかった金額	ほぼ０円
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 11 月 24 日
実践の所要時間	２時間×１日＝２時間
実践の運営側で動いた人の人数	１０人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約３００人
実践を行った都道府県と市区町村	千葉県　　銚子市
実践を行った具体的な場所	千葉県立銚子高等学校　体育館
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	東京大学大気海洋研究所　国際連携研究センター長 教授　道田　豊　様 ＰＣ・プロジェクター

達成目標	昭和５９年に本校の自然科学クラブが海流調査のために放流した海流瓶が、今年６月、アメリカのハワイ島の海岸で発見された。これに関連して、近年問題のプラスチックなどが、海流でどのように運ばれているか等について学び、持続可能な社会のために、海の豊かさを守ることの大切さや、日常において可能な取組について学ぶ。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法	東京大学大気海洋研究所国際連携研究センター長 教授 道田 豊 様をお招きして、１・２学年生徒対象に講演会を開催した。今般の海流瓶をはじめ、近年問題のプラスチックなどが、海流でどのように運ばれているか等について学び、持続可能な社会のために、海の豊かさを守ることの大切さや、日常において可能な取組について学んだ。地学基礎の授業で海流について学習していることや、「防災の学び」やSDGｓ関係の課題研究に取り組んでいることと関連付け、理解を深めた。 	
得られた成果	海に流出したプラスチックが、海洋をはじめとする生態系へ影響を及ぼす可能性について学んだ。防災や減災につながる生活様式の在り方についても、持続可能な社会実現の視点を合わせて考えていくことの重要性を認識した。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	当初の実践計画には入っていなかったが、タイムリーなニュースと合わせて、講演会を開催した。防災について考えるうえでも、海流などの影響が関連してくる場合がある。生徒の視野を広げるためにも貴重な機会であった。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	

記入日	西暦 2022 年 1 月 20 日（2021 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	千葉県立銚子高等学校
実践番号	６
タイトル	県銚アカデミア～探究型学習成果発表会～
実践担当者のお名前	山﨑　猛浩

実践にかかった金額	3 万円未満
実践の準備にかかった時間	数週間
実践活動を実施した日時	西暦 2022 年 1 月 20 日
実践の所要時間	３時間×２日＝６時間
実践の運営側で動いた人の人数	１０人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約３００人
実践を行った都道府県と市区町村	千葉県　　銚子市
実践を行った具体的な場所	千葉県立銚子高等学校
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	講師（審査員） ・千葉科学大学　危機管理学部から ・銚子市役所　総務課　危機管理室から ・銚子市教育委員会 　社会教育課　文化財・ジオパーク室から ・ＰＣ・プロジェクター

達成目標	一年間の課題探究学習の総まとめとして、クラスの代表班による発表を行う。１・２学年で、探究型学習の成果を共有して学びを深める。 講師から講評を受け、今後の探究の方向性等を考える。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<table>
<tr><td>実践内容・方法</td><td colspan="2">事前準備
・パワーポイントを使用して発表用スライドを準備する。
・研究紀要を作成する。
・学年ごとに発表リハーサルを実施する。
当日
・各クラス代表班の発表を行う。発表５分。質疑応答３分。
・それぞれの班について、講師から講評をいただく。
・各学年優秀班を１班ずつ選出し、最も優れている班にアカデミア最優秀賞を、もう一方の班に優秀賞を与える。
 </td></tr>
<tr><td>得られた成果</td><td colspan="2">※急遽、開催日当日に実施を見送り。準備やリハーサルまで実施した。
各クラスの代表であることや、外部から講師を招聘することを意識して、発表の精度を上げるべく、熱心に準備する姿が見られた。学年リハーサルでの反省を踏まえて、より分かりやすくまとまったプレゼンテーションが仕上がり、効率的に成果共有ができる準備が整った。生徒のプレゼンテーション能力が飛躍的に向上した。
※アカデミアについては、日程を再調整し、後日実施する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どのくらい身につきましたか？</td><td>知識・技能</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>思考力・判断力・表現力</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>学びに向かう力・人間性</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>課題・苦労・工夫</td><td colspan="2">今回、学校の都合上スケジュールがタイトであったため、限りある時間の中で準備することがとても負担であった。講師をお招きする以上、本番に確実に間に合わせる必要があり、冬季休業中や放課後の時間を使って準備を進めた。クラス内発表からアカデミアまで、１か月半ぐらいの感覚を空けることが望ましいと考えられる。</td></tr>
</table>

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	千葉科学大学
関係者の説明	近隣の大学。危機管理学部をはじめ、本校の教育実践に御協力いただいている。
関係者の連絡先	0479-30-4500

関係者の名前・団体名	銚子市役所　総務課　危機管理室
関係者の説明	避難場所設置体験等でお世話になっている。
関係者の連絡先	0479-24-8181

関係者の名前・団体名	銚子ジオパーク推進協議会
関係者の説明	ジオパークは地質遺産を含む自然の保護に加え、それらを教育やツーリズムに積極的に活用し、地域の持続的な活性化を目的としている
関係者の連絡先	0479-21-6667

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	近隣小中学校や地域住民の方々
伝えたい内容	地域に根差した防災の学びの成果をお伝えし、地域貢献を果たしたい。小中学生に伝えることで、郷土についての理解を深め、今後の防災や減災について一緒に考えていきたい。